

第15回登別市総合計画第3期基本計画市民検討委員会まちづくり部会議事録

- ◆ 開催日時 平成27年8月13日(木) 18:30～ 20:00
- ◆ 開催場所 第1委員会室
- ◆ 出席部会員 部会長 中原 義勝
部会員 山田 正幸
田中 寛志
堀井 貴之(市庁内検討委員会 部会長)
「総務部次長」
沼田 久人(庁内検討委員会 副部会長)
「市総務部企画調整 G 総括主幹」
事務局 上野主幹、菊地主査、遠藤担当員、有馬主任
- ◆ 欠席部会員 副部会長 渡部 雅子
部会員 稲葉 一彦
工藤 隆行
川島 雅司
松本 崇之
成田 育磨
- ◆ 議題 「登別市総合計画第3期基本計画策定への提言書(案)」に関する考え方及び体系図について

◎部会長

先月の23日に部会長・副部会長会議がありまして、各部会において提言書の内容の確認を行うこととなりましたので本日お集まりをいただきました。

庁内検討委員会のお話を聞いた上で、皆様のご意見をいただければと思います。

◎市庁内部会副部会長兼事務局

提言書に入る前に、まず地方創生についてご報告させていただきます。

市民検討委員会をはじめとして、市民の方、各職員から様々な事業アイデアを出していただきました。

結果として230本程度の事業としてまとめましたが、その中から平成26年度の下半期でできること、仮に国の交付金が期待できない状況になっても、市の単費だけでできることなどを考慮し、選定した結果、6本の事業を国に提出することとしました。

商店街活性化事業補助金ということで、商業地域だけの補助ではなく、商業

地域から外れた商店であっても補助の対象、拡大をしようという事業が1つ目です。

2つ目は、認知症高齢者が徘徊されたときに、発見するためのネットワークに対して、GPSを搭載して早期発見をしようという事業を試験的にやりたい。

3つ目は、介護人材が不足している為、移住とセットにした介護サービスの人材確保を行いたい、人材育成の為に資金を一部補助するという事業です。

4つ目は、ブックスタートと授乳室をセットとした事業を始めるということで、現在取り組んでおりますが、今度は3歳児を対象として絵本だけではなく、例えば図鑑を配布するなどして、本を見て知識を得る楽しさや図書館の活用を促すといった、ライブラリースタート事業も始めます。

さらに移住促進・移住体験のPR事業も行っていきたいと考えています。

これらを含めて国には1,000万の補助金を申請しています。

地方創生に関する国の補助は、将来切れることを考え、切れたとしても自らの財源で継続できる事業を考えています。

国の交付金に関しては、国の総事業費は1700億でしたが、来年度の国の予算確保は、1,080億と減っており、その額から半額補助ということになっています。

登別市は国の補助の方向性を考え、補助がなくてもできる範囲の事業を元々組んでいます。

3,000万～5,000万の補助金が出るタイプIというものもあり、こちらは先駆性のある事業が求められます。

現在事業の募集を庁内に投げかけていますが、こちらも1つは案を出していきたいと思っています。

現在は移住促進のPR・広告関係で案を出すことを検討しています。

また、地方創生に関して議会で特別委員会を設置しています。

特別委員会の目的は、第3期基本計画と総合戦略が連動しているのか調査することで、現在総合戦略の策定方針について議会に提供しており、説明をしています。

場合によっては、基本計画・総合戦略に深く関わっている皆さんに議会に来ていただいて、ご意見をお聞きする場面もあるかと思っておりますので、その際はご協力をお願いします。

続いて提言の方は、先に部会長・副部会長会議がありまして、提言書を各部会にて検討するということになっています。

また他部会の提言書の内容については、基本的に口を出さない、各部会に任せるといったことで合意をいただいています。

また提言書が完成した場合の提出方法については、委員長・副委員長・部会

長は必ず出席してもらい、副部長は出席できる方に出席してもらい、市長へ提出を行います。

それでは提言書の内容についてですが、私共の方でまず確認しなければならないことがあり、基本計画策定に向けた私たちの思いと願いについて、修正点・追加部分があればお話しをお聞きしたいと思っています。3ページ目までについて何か修正はございますか。

◎部会員

このままで良いと思います。

◎市庁内部会副部長兼事務局

それでは、各部会の検討を踏まえた提言部分についてですが「今後においても、住みやすく、魅力あるまちであり続けるためには、町内会活動を活性化するなど」と書いておりますが、町内会活動だけではないという議論がありましたので、「町内会をはじめ、様々な市民活動団体の活動を活性化するなど」と変更します。

◎部会員

体系図との関係もあるのだが、「担い合うまちづくり」の一環として、NPO活動が重要視されていないという意見がある。

NPO活動をどう捉えているのか、また体系図に反映されていない。

◎市庁内部会副部長兼事務局

担い合う役割分担は、登別市としてどういう役割分担がいいのか、もう一度考えていきたいと考えています。

また体系図内のまちづくりを担う市民活動団体というのはNPO法人が含まれています。

団体の区分けをしなくて、広くやっていくべきだという思いです。

◎部会員

市の指定管理を受けているNPO団体は、NPO活動や市民団体活動を促進させるために行動すべきである。

またNネットなどNPO間の横の連携がとても大切である。

基本計画の中で、NPO団体は、行政の担い手の大きな組織としてこれから拡大していかなければならない。

◎市庁内部会副部長兼事務局

まちづくりを担う市民活動団体というのは、NPO・町内会も含んだ広い範囲ですということと、NPO団体内で横の連携が大切だという話は重々聞いていますという話は、様々な機会を活用して皆さんにお伝えしようと思います。

◎部会員

第1節の「コミュニケーション力がまちづくりの原動力」について、これが全てだと思っている。

他の部会も同じだが、「なにをしましょう」などは方法論であって、全ての目的を達成するにはコミュニケーション力が重要であり、解決につながる。

コミュニケーション力を高めるための方法論も非常に大事なことだと思うので、もうちょっと強調して皆さんに理解していただいた方が良いのではないかな。

コミュニケーションが事業の中に埋没している気がするので、鑑の部分にもあってもいいのかなと思う。

コミュニケーションが非常に重要である。

◎市庁内部会副部長兼事務局

3ページの下から10行目部分に、「登別市の活性化に向けた各種取組等の検討について」の後に「まちづくり、人づくり、コミュニケーション力の育成・強化がまちづくりの原動力となる大切な考え方である」という部分を付け加えます。

人と人の対面で、言葉を交わして、心を交わすことで初めてまちづくりができるということですね。

各部会はコミュニケーションが大事という思いもしっかり持っていて、部会内でリラックスしながら自分達の思いを言うことができたということは、必ず各部会で書いています。

◎部会員

まちづくり基本条例の考え方として、「議会」という言葉がまちづくりの一番先に入っている。

他の部会の中に「議会」についての内容は入っていますか？

◎市庁内部会副部長兼事務局

入っていません、あくまでも行政の計画です。

◎部会員

登別は、人口増やまちの活性化などの政策を行っているが、主体は観光のまちですよということに関して、市民は登別のまちをどう作ろうとしているのか見えていない。

連合町内会では登別は観光と福祉のまちにすべきだという意見がでている。福祉のまちはお金がかかるが、お金をかけないといけない。そういう部分がこの体系図では見えてこなかった。

◎市庁内部会副部長兼事務局

福祉のまちというのは重々承知しているところなので、引き続き、課題として考えます。

一番目立つ部分は観光かもしれないが、観光だけのまちじゃないと考えています。

アクションを起こしている部分は、連合町内会と組んで色々な方が移住してきても受け入れるまちという部分でPRをしています。

基幹産業は観光ですが、商業全体の底上げが大事であり、中小企業の活性化が大事ですという体系図に組み替えています。

現在移住という点で、キャッチフレーズ「ちょうどいいまちのぼりべつ」という言葉を考えています。

これは観光だけではなく、移住という点を考慮しています。

お試し暮らしの実績が、道の集計結果で、179市町村中、5位となりました。

登別は様々な魅力があるまちで、今回は「ちょうどいいまちのぼりべつ」と謳って移住のPRをしていきたいと考えています。

観光だけではなく、住むところとしても良いという点をアピールしていきたいと考えています。

温泉だけではなく、宅建協会と組んで、登別の住宅地の方で移住体験をしてほしいと思って取り組んでいるが、なかなか難しい状況です。

◎部会員

登別で旅行者が静かなところで過ごせる施設を作るべきである。

◎市庁内部会副部長兼事務局

例えば、古くなった職員住宅をリフォームして、レンタカーをセット付ける案や人と人のつながりを考慮して、町内会の体験事業も案として持っています。

宅建協会に月や週単位で貸してもらえる物件はないのか相談しているが、な

かなかないのが現状であります。

◎部会員

「ちょうどいいまち」というのはどういうまちなのか、市の職員が他のまちに勉強しに行ってもいいのではないか

◎市庁内部会副部長兼事務局

旅費との兼ね合いがありますが、他のまちを見学するのは良いことだと思います。

◎部会員

出張は、やる気のある人を選出することで、一段も二段も考え方が、仕事が変わってくる。

やる気のない人でも、やる気を起こさせる為に出張は有効であり、選ばれたという意識を持たせることで、やる気・考え方が変わる。

役所もそのような考え方を持つべきだ。

他のまちは、まちの大きさも人口比率も産業も地域特性も全部違うので、その部分を擦り合わせて初めて案として生きてくる。

それを考慮して、他のまちを見学・参考にすべきである。

まちづくりは人づくりであり、コミュニケーション力を高める方法論と同じく、人づくりに対しても方法論が必要であると考えます。

◎市庁内部会副部長兼事務局

今回の基本計画を皆で作るというのは、この場を作るという事が、一番意味がある事だと考えています。

この場を続けていくことで、市民がどうやって行政や市民団体と話をするのか学ぶことができ、市役所の職員も市民の方と対話ができる場で学ぶことができるというのが一番の収穫だと考えている。

行政が市民団体を育てるのではなく、市民の方が役所の人間を育てるという場になってくれればと思います。そのような意味での人づくりであると考えています。

◎部会員

それはお互い様だと思っている。それぞれの役割というものを明確にし、対話する中で関係を深め、互いを知ることがコミュニケーションの核だと考えている。

このような場を全庁に広げ、コミュニケーション力を持つことができれば、すごいまち・市役所となることができる。

◎市庁内部会副会長兼事務局

このような場はとても大事なので、長く続けていき、様々な市民の方からご意見をいただいきたいと思っています。

8月の末に提言書を市長に手渡しをして、9月25日から1ヵ月間、パブリックコメントを受付け、12月の議会に提案をするという予定です。

次の部会は9月中に開催したいと考えております。

提言書内には、部会員の皆様のお名前、開催回数等はつけて、整理をしていく予定です。

また地域と共に描くまちづくりの部分を粗末にせず、基本計画の資料編などで、地域の想いという形で、添付したいと考えております。

◎部会長

以上で今日は終わりにしたいと思います。おつかれさまでした。